

第96回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和4年2月15日（火） 10:00-11:00

2. 場所：中央合同庁舎4号館1214特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、山崎委員

(2) オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官、山川宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事長

(3) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、岡村審議官、恒藤参事官

(4) 説明者

総務省：山内国際戦略局審議官

文部科学省：真先研究開発局長

経済産業省：新川大臣官房審議官（製造産業局担当）

国土交通省：高田大臣官房技術総括審議官

防衛省：田邊防衛政策局戦略企画課長

4. 議事要旨

事務局及び関係省庁より、資料1-1から1-6及び2-1から2-3に基づき、主な施策の進捗状況及び令和4年度予算案における宇宙関係予算等について、説明を行った。委員からは以下の意見があった。

- 宇宙関係予算が5,000億円となったことは評価する。宇宙政策を確実に進めていくためには、5,000億円は最低限必要な予算額だと認識している。省庁が着実に執行を行い、工程表に記載されている具体的年限で施策を実現できるよう取組むことが重要。
- 宇宙関係予算が5,000億円を超えたが、予算の内訳が重要。ニーズに合っているかなどを分析し、今後に向けて検討をしていくべき。
- 小型SAR衛星データの利用実証について、2025年までに小型衛星コンステレーションの構築を目指すことと工程表に明記したことは重要なこと。利用実証においては、各省で衛星を使い倒し、改善すべき点などをフィードバックし、更なる衛星開発とデータ利用促進の好循環となるよう取組んで欲しい。
- 小型SAR衛星コンステレーションは、安全保障などさまざまな観点から重要。重点的に投資していくべき。

- 内閣府のスターダストプログラムは有意義な取組であるが、ある程度フェーズが進んだら、各省における本格的な取組みに進むようになることが理想。
- 防衛省における宇宙利用が着実に拡大しているが、最新技術の導入など、その他の省庁と技術面での横通しを図りつつ進めることが大切と思う。今後議論を行いたい。
- ひまわりは気象観測だけではなく、災害監視においても世界的に貢献している。次世代衛星の開発に、着実に予算措置を行うことが重要。
- ヨーロッパではコペルニクスマスターズという、衛星データの利用コンテストがあり、グリーンやSDGへの活用などを促進している。我が国でも同様の取組みを行うといいのではないか。
- 国家安全保障戦略・防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画の、いわゆる防衛三文書の改訂が予定されているところ、宇宙の位置づけは大きくなると考えられ、当委員会でも議論していくべき。安全保障の観点で必要な整備は引き続き進めていくべき。
- 経済安全保障の観点からも、宇宙関係の技術には重要なものが多い。政府の新たなスキームも利用して、これらの技術の研究開発を加速していくべき。それによって、国内の宇宙産業を育成していくことが重要。
- 量子暗号技術は安全保障や社会活動において重要であり、研究開発をスピードアップすべき。諸外国に負けると大きなダメージになる。
- 自立的な宇宙活動という理念の実現には、衛星開発に加えて輸送も重要。例えば、小型衛星コンステレーションの計画は多いが、国内の輸送手段は不十分。これらが海外で打ち上げることになると、我が国の民間ロケット市場の拡大につながらない。小型のロケットを含めて戦略を検討することが重要。
- H3ロケットは極めて重要。開発状況をこまめに報告していただき、本委員会でも議論していくべき。宇宙政策委員会でもしっかりとフォローしていく。
- 海外からH3の評判は良いが、顧客が逃げないように、技術的課題への対応については、当初の方針に加え、並行してバックアップ策も含めて対応を検討すべき。
- 宇宙科学・探査は重要。着実に進めていくべき。国際協力を行う上でも、自前で行えるよう技術開発を進めていくべき。フロントローディングの活用を行うべき。

これらの意見も踏まえて、今後、「宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項」の決定に向けて、部会等で詳細な議論を行うこととした。

以上